

いとかまでら
茶畑発祥地・糸蒲寺跡・田芋発祥地

はいさーい！ きじむんやいびーん。
今回は、琉大東口付近にある史跡を紹介します。

茶畑発祥地 琉大の体育館付近は、琉球王朝時代は、茶山(チャーヤマ)という山で、琉球初の茶畑でした。歴史書『球陽』の尚敬王 21(1733)年の項目に記載されています。残念ながら、今はその面影はありません。



茶畑跡周辺



糸蒲寺跡

いとかまでら
糸蒲寺跡 琉大東口を出ると、東側に小高い丘があります。

琉球王朝時代は、そこに糸蒲寺がありました。

『琉球国由来記』巻14の212-1の記述によれば、日本からの補陀落僧(ふだらくそう)が住職をしていました。

この寺は、糸蒲ノロと糸蒲寺住職の伝説が有名です。

幼い女の子を家の外へ追い出して話し合いをしていた糸蒲ノロと僧侶は、この幼女の言葉によってノロの夫に密通を疑われます。二人は憤慨し、糸蒲ノロは、「この家の女子は末切れ末切れ(=女子は途絶える)」という呪いを吐き、乳房をかみ切って自殺。僧侶は糸蒲寺の財宝を糸蒲御嶽へ隠し、櫃(ひつ)に入りました。直後に寺は炎上して焼失。その後、櫃の中は空っぽになっていた(=天へ帰った)そうです。その後、ノロの家に女兒は生まれなくなりました。それ以来、寺は再建されず、1700年代には、寺の石段だけが残っていたそうです。

火事で寺が焼失する瞬間、寺の本尊が首里城の漏刻門(ろうこくもん)に現れたという伝説もあります。

糸蒲寺の東は、糸蒲遺跡というグスク時代の遺跡で、グスク系土器や青磁片が出土します。糸蒲寺の東側道路は、王府時代の主要道路で、今は「歴史の道」と呼ばれています。

また、丘の上にはこの付近の沖縄戦没者800柱を祀った慰霊塔「糸蒲の塔」もあります。



糸蒲の塔



歴史の道

田芋発祥地 糸蒲寺の周辺は、琉球の田芋発祥地です。

糸蒲寺の補陀落僧が、日本から持ってきた田芋を寺の近くに植えました。そこから沖縄中へ広まったという伝説があります。



田芋発祥地付近

ほかにも琉大内や付近の史跡やスポットはたくさんあります。

続きは、また次回に御案内します！

(AS生)

参考文献

西原町史編纂委員会編『西原町史』第四巻資料編三 西原の民俗 平成元年3月

西原町史編纂委員会編『西原町史』第五巻資料編四 西原の考古 平成8年3月

仲間勇栄・仲地宗俊・菊池香「琉球大学千原キャンパスにおける森と人々の暮らしに関するフィールド調査」『琉球大学農学部学術報告49号』平成14年12月

宜野湾市教育委員会文化課編集・発行『ぎのわんの地名内陸部編』平成24年3月